高倉だより

評価特集号

令和３年３月２２日

京都市立高倉小学校

～令和２年度　後半学校評価結果を
お知らせします～

学 校 教 育 目 標

よりよい生き方を求めて，誇りをもち，未来にはばたく高倉の子

～豊かに学び，表現し，高め合う姿をめざして～

今年度後半も，アンケートへのご協力ありがとうございました。前半と同様のアンケートをとらせていただき，集計結果を前半の結果と比較して分析しました。後半の学校評価について報告させていただきます。

集計結果（前半との比較）

▸４段階評価　そう思う・だいたいそう思う…プラス評価
あまりそう思わない・そう思わない…マイナス評価

◎…プラス評価　90%　　○…80～90%　　80%未満は数字

3%以上上昇　3%以上下降

＜確かさを育む教育＞

		R2前半 児童	R2前半 保護者	R2前半 教職員	R2後半 児童	R2後半 保護者	R2後半 教職員
①	学校の勉強がよくわかる	◎	○	◎	◎	○	◎
②	自分の思いや考えをすすんで伝え合う	○	○	◎	○	○	◎
③	家庭での読書を楽しむ	73.6%	62.1%	62.9%	74.5%	63.1%	73.5%
④	家庭学習	◎	◎	◎	◎	◎	◎
⑤	最後までやりぬく	◎	◎	◎	◎	○	◎
⑥	見通しをもって学習（学習予定表の活用）	◎	65.1%	◎	◎	63.9%	◎
⑦	授業中の約束守って，集中して	◎	◎	◎	◎	◎	◎

＜豊かさ・たくましさを育む教育＞

		児童	保護者	教職員	児童	保護者	教職員
①	学校生活が楽しい・安心	◎	◎	◎	◎	◎	◎
②	思いやりのある温かい言葉づかい	◎	○	○	○	○	◎
③	友達と大切にし合う	◎	◎	◎	◎	◎	◎
④	学校の決まりを守って行動	◎	◎	◎	◎	◎	◎
⑤	放課後・休みの日ルールを守る	◎	◎	◎	◎	◎	◎
⑥	学校・家・地域でのあいさつ	◎	○	65.9%	◎	○	○

＜健やかな心と体を育む教育＞

		児童	保護者	教職員	児童	保護者	教職員
①	すすんで外遊び	74.0%	64.1%	◎	78.5%	69.4%	◎
②	食事の好き嫌いなく楽しく	○	76.8%	○	○	78.6%	◎
③	朝ご飯	◎	◎		◎	◎	
④	安全な登下校	◎	◎	◎	◎	◎	◎
⑤	自分の心や体を大切に	◎	○	◎	◎	◎	◎

＜高倉小の特色ある教育＞

		児童	保護者	教職員	児童	保護者	教職員
①	地域学習・伝統文化の学習に興味をもって	○	72.7%	◎	○	77.2%	◎

＜学校・家庭の連携＞

		児童	保護者	教職員	児童	保護者	教職員
①	先生に話をしたり相談したり	78.4%		◎	75.1%		◎
②	おうちの人に話をしたり相談したり	◎	○		◎	◎	

☞ 裏面で，「家庭読書」「あいさつ」「学校家庭との連携」に関して詳しくご報告します。

「確かさを育む教育」の①②については，後半においても良好な結果が出ていました。これは，読解力を基盤とした授業を大切にしている結果の表れであると考えられます。ただし，種々の調査結果から，学力の二極化傾向が若干見られます。この結果を今後の授業改善に生かしたいと思います。また，⑥については，保護者の方のポイントが低くなっています。さらに児童の結果も前半に比べやや低下していました。

「豊かさ・たくましさを育む教育」につきましても概ね良好な結果が出ていますが，マイナス評価をしている児童に対して，道徳や学級活動，各学級での生活の中で，お互いを認め合えるような活動を実施し，さらに自己肯定感を高めていけるようにしたいと考えています。また，⑥のあいさつについては教職員の評価が上昇し，プラス評価が８０％を超えました。

「すすんで外遊び」の項目は，前半に比べて児童，保護者の評価が上昇しました。しかし，全体的にみるとまだ低い評価となっています。

「地域学習・伝統文化の学習」の項目ですが，後半は，スマイル２１プラン委員会の取組をはじめ，地域に根差した学習が行われましたので，児童，保護者の評価が上がりました。引き続き高倉の特色ある学習を通して地域を愛することのできる取組を進めていきたいと思います。

学校評価アンケートは，外部評価（他人を評価するもの）ではありません。このアンケートは，当事者評価（学校を作っている教職員・保護者・地域が自分たちの取組を振り返るもの）であるため，記名をお願いしております。記名をしていただくことでともに学校をよくしていく方法を模索していきたいと考えています。

アンケート結果より（前後半 三者比較）

児童結果　保護者結果　教職員結果

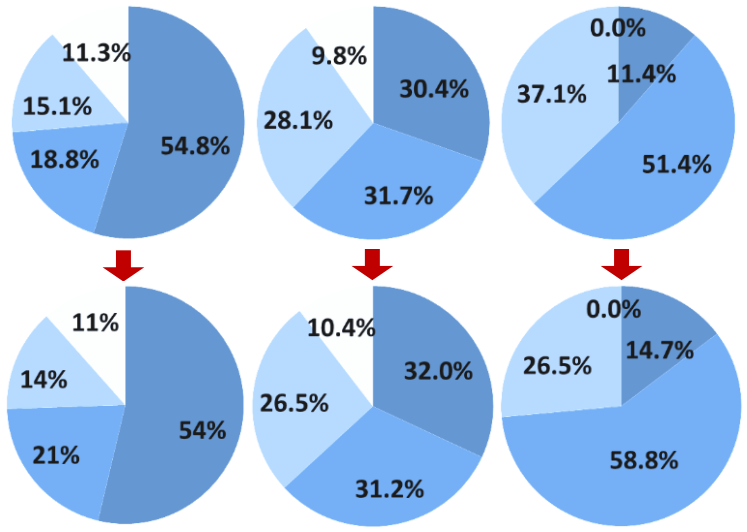
■そう思う　■だいたいそう思う　■あまりそう思わない　□そう思わない

【グラフの上段は前半の結果，下段は後半の結果】

家庭読書について

前半と後半の結果を比べてみると，プラス評価は，児童がプラス０．９ポイント，保護者がプラス１ポイント，教職員がプラス１０．６ポイントでした。子どもたちの学校での様子を見ると，朝の読書タイムやムーミンたいむの取組などから本校は本好きな児童が多いことがわかります。また，下に記載しております学年別図書館の貸出冊数も今年度は昨年度に比べ，大幅に増加しておりました。学校では，今年度，学校読書を家庭読書につなげる取組として，読書を家庭学習に位置付ける取組や全学年対象でブックトークを行っていただく「お話の森」を実施いたしました。さらには，スマイル２１プラン委員会（学校運営協議会）の読解部会の皆様には，２年生の国語の学習において，「お話世界旅行」の取組（様々な国のお話を紹介し，本に親しむ授業）を行っていただきました。これら様々な取組が本好きの子どもたちを育むことにつながっていると考えられます。毎年の各調査結果からも読み取れますが，本校の児童は，全国に比べても読書をしている割合は多いと考えられます。また，外遊びの項目におきましても，本校は毎年，他の項目に比べるとポイントが低い傾向が見られます。このような結果を踏まえますと，読書や外遊びは好きだが，家庭で読書をしたり，外で遊んだりする時間があるかどうかというと，習い事などで忙しい子が多く，本を読んだり，外で遊んだりといった時間が取れていないという現状があると考えられます。これは，本校の特徴であると同時に，課題でもあるところです。家庭での時間の使い方を今後も注意深く見ていく必要があります。

Q．家で読書を楽しんでいますか。



今年度は，昨年度に比べ，図書館での貸出冊数が大幅に増えました。これは魅力的な図書館運営をしていることや新型コロナウイルス感染症予防対策で，運動場の密を避けるため，休み時間の使用学年を制限したことが影響していると考えられます。校舎内でできることをする時間が多くなったため，本を読む時間が増えたと思われます。

各学年の特徴としては，高学年になるにしたがって１冊の本のページ数が多くなるので貸出冊数が減るという傾向が見られます。また，低学年は授業の時間に図書館に行くこともあるので貸出冊数が増える傾向が見られます。

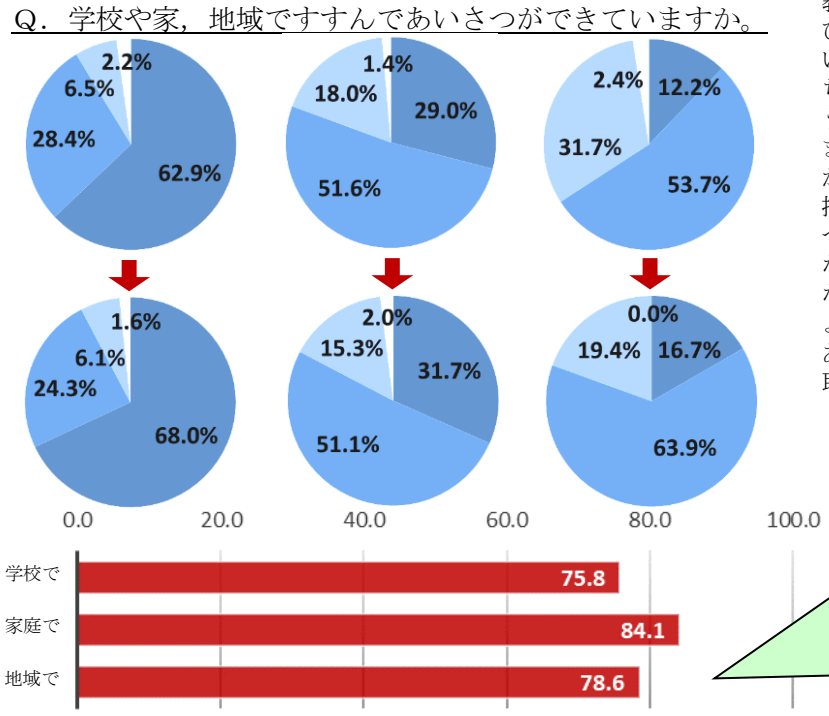
貸し出される本の種類としては，どの学年も物語の本（小説や絵本など）が多いということがわかっています。

学年別図書館の貸出冊数（R 元・R2）

（冊）	令和元年	令和２年
１年	8342	9138
２年	5100	8419
３年	1706	5525
４年	1483	5473
５年	1482	3295
計	18280	31847

あいさつについて

Q．学校や家，地域ですすんであいさつができていますか。



「学校・家・地域のどの場面であいさつがすすんでできているか教えてください」という質問の結果です。この結果を見ると，子どもたちは家ではしっかりとあいさつができていますが，学校や地域ではできていないと答える子が多いということがわかります。もう少し学校や地域であいさつがすすんでできるようになるとよいですね。

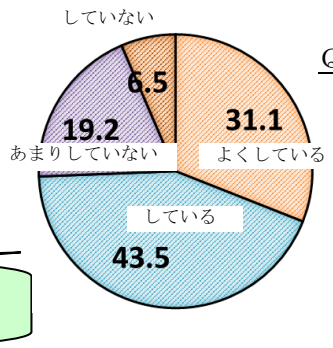
プラス評価は，児童がプラス１ポイント，保護者がプラス２．１ポイント，教職員がプラス１４．７ポイントとなりました。後半も引き続き，児童会の呼びかけにより，クラスごとに朝のあいさつ運動である「あいさつリレー」を行いました。異学年の子どもたちがペアとなって校内の様々な場所に立って気持ちのよいあいさつを行っていました。また，教職員も子どものお手本となるようにあいさつ運動に参加したり，校内でのあいさつを意識的に行ったりしています。玄関の上には，今年度，児童会が主体となって作った「あいさつ横断幕」が掲げられました。校内でのあいさつは盛んになり，学校を訪れる方からも気持ちのよいあいさつをほめていただいています。しかし，学校外のあいさつについては，地域の方や保護者の方から，「あいさつをしてくれる子としてくれない子がいる」「あいさつの声が小さい」「大人があいさつできていないのではないか」というお声をいただいています。今後の課題としては，学校でできるようになっているあいさつを地域や家庭に広げていくことだと考えています。あいさつの大切さを伝えながら，さらにあいさつあふれる高倉校になるように取組を進めてまいりたいと思います。

玄関のあいさつ横断幕

学校・家庭の連携について

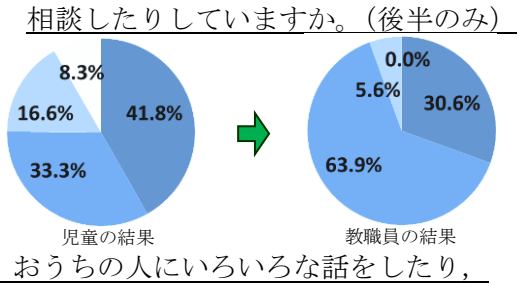
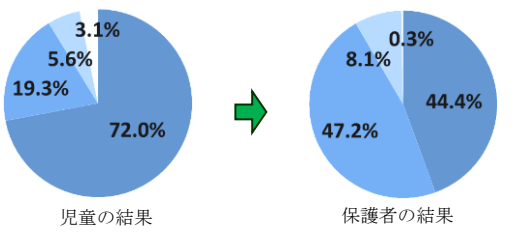
子どもが先生やおうちの人などにいろいろな話や相談をしているかという設問ですが，毎回の傾向で，おうちの人には比較的話や相談をしていますが，先生に話や相談すると答えている評価が低いという特徴が見られます。しかしながら，教職員の評価を見ると高いポイントが出る傾向が見られます。今回も同様の結果が見られました。そこで，今回も教職員には別途，クラスの子どもたちの中でどのくらいの割合の子どもたちが先生にいろいろな話をしたり相談したりしていると感じているかアンケートをとりました。

これを見ると，「よく話している」３１％「だいたい話している」４４％となっており，プラス評価を合わせると約７５％となります。この結果は，児童の結果約７５％と一致します。ただし，この結果から分かることは，担任の意識からもクラスで約２５％の子どもたちは，担任に話したり，相談したりできていないと感じているということです。学校としてはよりいっそう何でも気軽に先生に話したり，相談したりできるようにしていく環境づくりをしていく必要があると考えています。一人一人の子どもたちを認め，何でも相談できる学級づくりを今後もめざしていきたいと思います。また，家庭とも連携し，子どもたちの思いをしっかりと受け止められるようにしていきたいと思います。



「どのくらいの児童が先生に話したり，相談したりしていると感じているか」と担任に質問した結果です。

Q．先生にいろいろな話をしたり，相談したりしていますか。（後半のみ）



Q．おうちの人にいろいろな話をしたり，相談したりしていますか。（後半のみ）